札幌市南区北ノ沢での国内外来種アズマヒキガエルに対する取り組み（2021 年）の報告

かんガエル（両爬の生態系をかんガエル・札幌市南区チーム）・代表 徳田龍弘

はじめに

もともと北海道には生息していなかった国内外来種アズマヒキガエルが、北海道では函館市周辺、室蘭市、石狩川を根源とした旭川～石狩市及びその周辺地域、札幌市などで生息しているのが確認されています。日本の在来種で、都府県によってはレッドデータに掲載される種ではありますが、北海道では増殖速度が速く、また「北海道の在来動物」への影響（昆虫類の捕食、捕食した動物の毒による死亡など）が小さくないと考えられ、北海道の外来種リストであるブルーリストでは、最もランクが高い A1 クラスに指定されており、「緊急に防除対策が必要な外来種」とされています。

札幌市南区北ノ沢では 2018 年に 30 個体程度が発見され、危機感を持った有志が「かんガエル」を結成し、2019 年から活動を始めました。①生息地の拡大の防止、②生態系や人間生活への影響の調査、③前記のことについての啓発活動、を柱に活動を行うこととしました。

2018 年の確認状況（紫のポイント）（Googlemaps を利用）

2019 年には池の見回り、ラインセンサス調査等により、繁殖池を確認し、その規模が予想より大きかったため防除活動も並行して行いました。4/22～10/13 の野外調査でアズマヒキガエルの成体485個体（雌雄判別せず）、幼体（仔ガエル）102個体、幼生（オタマジャクシ）1799個体、卵 744.5ℓを防除するに至りました。この予想を超える防除数に強い危機感を覚え、2020 年は繁殖池に罠を張って、効率的に捕獲することとしました。

2019 年の確認地点（広範囲版）

2019 年の確認地点（拡大範囲版）

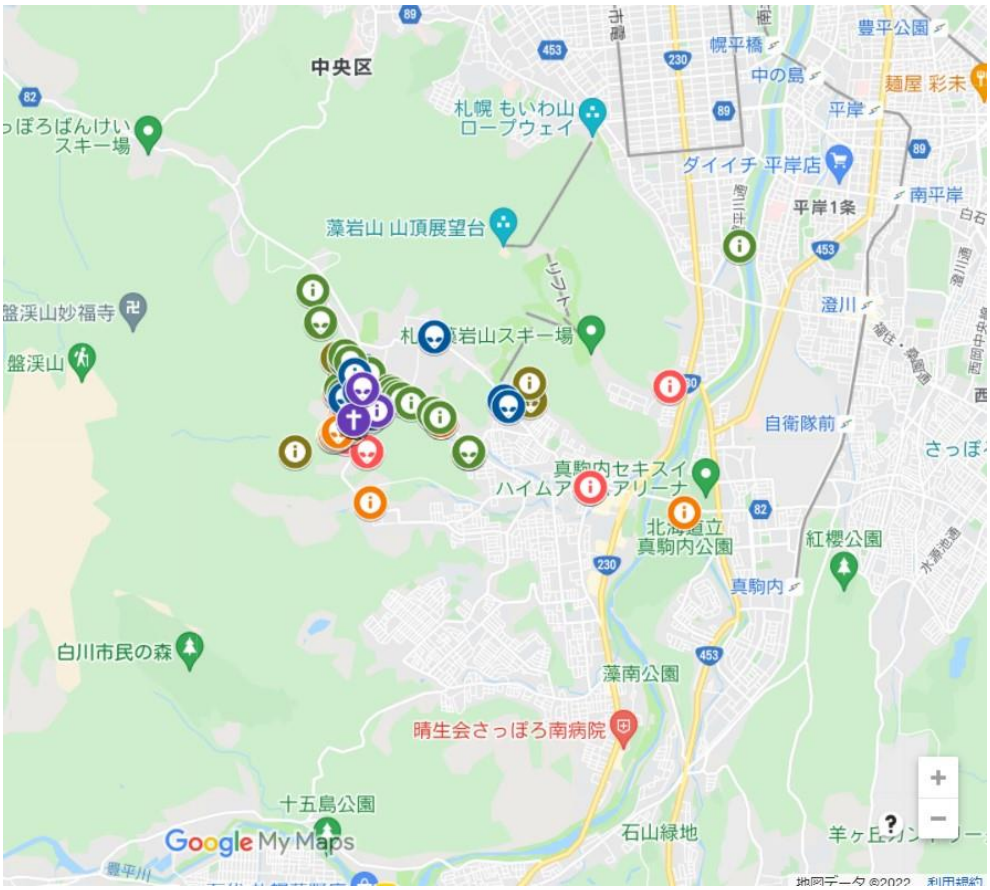
2020 年に活用した罠については、2020 年度の発表で詳細を述べていますので、そちらをご参考ください。

参考：札幌市南区北ノ沢での国内外来種アズマヒキガエルに対する取り組み（2020年）の報告（YouTube）
https://youtu.be/6T4g5IhRD-Q

2020 年は過年からの増殖傾向からか、罠がうまく活用できたからか確信は持てませんでしたが、最終的にアズマヒキガエル成体 3130 匹（♂2605♀472 不明 53）、幼体（仔ガエル）18匹、幼生（オタマジャクシ）56匹、卵 48.5ℓ が防除されました。6 倍増だったので、力が抜ける思いだったのですが、数年活動を続けないと事の趨勢は見極められないため活動はもうしばらく続けることとしました。また、北ノ沢地区以外に清田区有明エリアでも成体 83 匹（♂13♀5 不明 65）、幼体 40 匹が見つかり、新たな個体群がいることが確認されました。こちらは我々の活動拠点から離れているため、十分な対応が難しく、札幌市役所と連携して対策を検討していくこととなっています。

2020 年の確認地点（広範囲版）

地図のマーク
i ：寄せられた情報によるもの
👽（宇宙人の顔マーク）：アズマヒキガエル生体を確認した場所
✝ ：轢かれているなどで死亡した個体を見つけた場所
〇 ：産卵場所
♪ ：幼生の発見場所



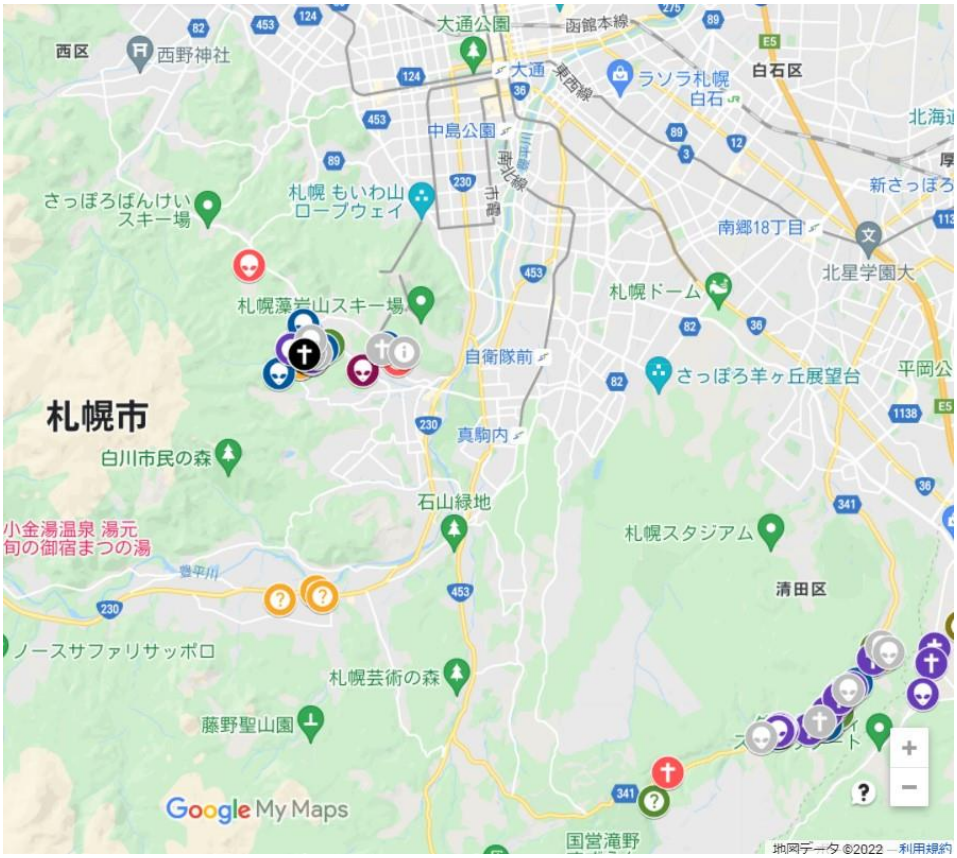
2020 年の確認地点（北ノ沢拡大範囲版）

2020 年の確認地点（有明拡大版）

2021年は同様の罠を張り、新規産卵池の確認調査などを行いました。ラインセンサスは、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、人手を集めるのが難しく、十分ではありませんでしたが、主な夏季の活動期の 8 月末頃まで、週に 1 度程度以上の適度な頻度で行いました。9～11月は適度にラインセンサスを行っています。

最終的に 2021 年には、北ノ沢でアズマヒキガエル成体 3669 匹（♂2650♀865 不明 154）、幼体（仔ガエル）97 匹、幼生（オタマジャクシ）742匹、卵 78.2ℓ の防除となりました。数自体は 2020 年より多かったのですが、倍増感もなく、頭打ちになっている感覚が得られました。また、罠によりメスの捕獲率が高く、効率的な防除になっている様子がうかがえました。また、素早い防除で産卵数も抑えられたため、卵量も幼生数も 2020 年同様、抑え気味にはできたと思います。個体の確認範囲も一部は拡大したところもあるのですが、全体的には抑えられているように感じています。

しかし有明の方は広大な産卵池が見つかる等、深刻な状況が浮き彫りになりました。有明エリアでは成体 108 匹（♂29♀22 不明 57）、幼体 162 匹、幼生 3300 匹、卵紐 123.4ℓ となりました。2022 年については札幌市と対策の検討をしています。



2021 年の確認地点（広範囲版）

2020 年の確認地点（北ノ沢拡大版）

2020 年の確認地点（有明拡大版）

北ノ沢における産卵池はじわりと拡大していますが、メインの産卵池以外では産卵数は少なかったです。見つけられていない産卵地がなければよいのですが。2022 年は新産卵池でも対策を検討しています。

2021年の北ノ沢の産卵地点

2021 年の北ノ沢、3～4月の確認地点（盤渓で 1 個体出ているのが気になりますが、その後の出現はありませんでした）

2021年の北ノ沢、5～6月の確認地点（一部卵の取り残しから幼生が発生しました）

2021年の北ノ沢、7～8月の確認地点（やはり夏季には他の場所へと出張していくようです）

2021 年9～11月の確認地点（2020 年よりは広範囲への動きが抑えられたようにも見えますが、この時期の調査数が少なかったため、本当に抑えられたのかはわかりません）

2021 年はコロナ禍により動きにくい実情もあり、これは 2022 年以降も続くのではないかと思っています。2021 年まで使用した池の囲い罠が傷んできたため、2022 年は補助金を申請して網の新調と、より効率的な捕獲を検討していきます。

アズマヒキガエルの性成熟はオスで 2～3年、メスで3～4年と言われています。2019 年から防除活動を初めて卵を除去しているので、2022年か2023年には、卵を産みに集まるアズマヒキガエルがガクッと数が減ってくれるのではないかという期待もありますが、動物の力は侮れないところもありますので、現状維持や倍増するようであっても、あと数年は対策を考えながら進めたいと考えています。

減らすことができれば、モデルケースとして他の地域でも検討材料にしていただいたり、一切減らずに増えるのであれば、この程度の対策では対抗が難しいという一つの指標になるかと思います。現在は北ノ沢地域でアズマヒキガエルが見られなくなることを目指しておりますが、減らすことができない状況であれば、増えないようにする、特定の地域に侵入されないようにする、在来種を積極的に保護するという方針転換も必要になるかもしれません。この辺りの判断は 2023 年～2024 年頃に検討しようと考えているところです。

もし、活動にご興味がある方がいらっしゃいましたら、baikada（アットマーク）baikada. comまで、参加のご希望等のメールをいただけたらと思います。

長文失礼いたしました。

2022.2.25 徳田龍弘